

社会変革の経験者！ 見習うべき力強さ、ベビーブーマー世代！

今回は前回ご紹介した「X世代」の前世代、「ベビーブーマー世代」をご紹介します。

ベビーブーマー世代は、1965年(58歳)～1951年(72歳)とされていて、人口比率がとても高い世代です。なぜベビーブーマーかというと、1945年に第二次世界大戦が終了し、兵士が帰ってきたことにより、出生率が上がった世代だからです。戦争は大きな災禍を世界中の人にもたらしました。残念ながら戦争は今もなくなるのですが、この世代からはその不幸を乗り越えて復興しようとする人間の力強さを感じられます。

ちなみに、この世代は高度成長期の時代に生まれており、1953年(70歳)～1951年(72歳)は「団

塊の世代」ともいわれ、長く日本をけん引してきた世代でもあります。

彼らがさまざまな経験を積み重ね、作り上げてきた現代社会。モノの発達や価値観の変化による大きなパラダイムシフトが起こり、新たな変革期に入っています。昨今のデジタルトランスフォーメーションもそのひとつです。

社会の変革期には、とてつもない労力と勇気が必要です。次世代につなげていくためには、一步を踏み出す勇気が必要なのかもしれませんが。

※パラダイムシフト…その時代や分野で当たり前だと考えられてきたモノの見方や考え方が劇的に変化すること

照会 御前崎市CIO補佐官 高村弘史(総務省地域情報化アドバイザー)
デジタル推進課 ☎0537-851127

なっとく！原子力とエネルギーの



「エネルギーミックス」の中で、原子力発電にはどんな役割があるの？



火力、水力、原子力、再生可能エネルギーなどをバランスよく組み合わせる「エネルギーミックス」の考え方は、日本のエネルギー政策の基本になっています。その中でも原子力発電は、発電時に温室効果ガスの排出がなく、少量の燃料で大量の電気を作ることができ、地球温暖化の抑制や電気の安定供給に役立っています。

ただし、原子力発電は放射性物質を取り扱うため、安全に運用するためには、厳重な管理・運営と廃棄物の適切な処理が不可欠です。

火力、水力、再生可能エネルギーとともに、それぞれのメリットを生かした持続可能なエネルギーミックスを築くことが大切です。

